HIGHLIGHTS

子どもの学びから見える これまでの成果とこれから

詳細な分析結果は『詳細版』に掲載しています。右上の二次元コードから閲覧・ダウンロードしていただけます。

これまでの授業改善の成果

児童生徒の回答から見える 授業改善の手応え

「主体的・対話的で深い学び」
令和4年度から多くの項目で上昇。
正答率・スコアや好奇心、問題解決力等との関連が見られ、「好きを育み、得意を伸ばす」教育にも重要。

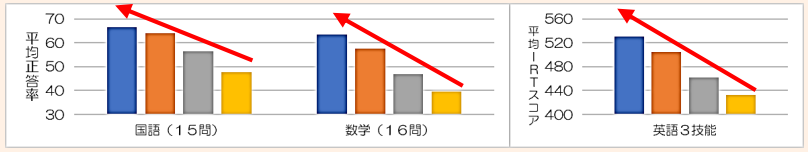
「対話的・協働的な学び」
小学校は全国や県を上回り、中学校でも全国や県との差が縮小。
対話的・協働的な学びの充実は、自己指導能力の育成につながる。
学習指導と生徒指導を一体として捉えた授業改善へ。

「自己調整する力」
肯定的回答が小・中学校ともに上昇。
学びを主体的に調整できる児童生徒ほど正答率・スコアが高い傾向。

小学校



中学校



【学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか】

積み重ねてきた授業改善に 確かな手応え

重点施策の成果と今後の方向性

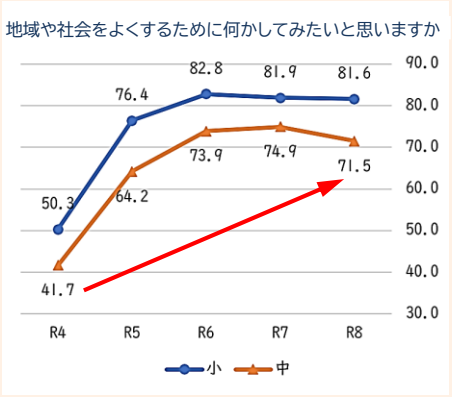
積み重ねた成果を 最終年度の取組へ

【乳幼児期から小学校への連続した学び】

成果：自己肯定感・探究的な学びは上昇 → これから：問いをもち、探究する学び

【学校と地域が一体となって進める教育】

成果：地域との関わりで約30ポイント上昇 → これから：地域とともに学び、創る



【GIGAスクール構想の実現】

成果：ICTの使用頻度は全国を大きく上回る → これから：ICTを選択・判断し活用する

みんなで進めてきた取組を 次の学びへ

各校での推進を

「児童生徒質問調査を活用した取組について【津市版】」を用いて
・市全体の傾向と自校の結果を照らし合わせ、自校の子どもの姿（強み・課題）を把握する。
・自校分析から、今年度の各校の研修主題に位置づく授業改善や学校全体の取組につなげる。

右の二次元コードから国立教育政策研究所のサイトにアクセスできます

令和８年度全国学力・学習状況調査　結果分析【津市詳細版】

１　調査の概要

⑴　**調査の目的**

津市教育委員会は、学習指導要領に示された資質・能力の獲得状況について、全国的な状況との比較を通して本市の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証するとともに、その改善を図ります。

各学校は、全国学力・学習状況調査をカリキュラム・マネジメントにおけるPDCAサイクルの「Check」の充実に位置付け、児童生徒一人一人の学力及び学習状況を客観的に把握し、自校の教育活動の成果と課題を明らかにするとともに、学習指導の充実や学習状況の改善に生かします。

こうした取組を通して、津市教育委員会及び各学校における教育に関する継続的な**検証改善サイクルの確立**を図ります。

⑵　**調査実施日**

令和８年４月２３日（木）

英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」：令和８年４月２０日（月）～２３日（木）のうち１日

英語「話すこと」：令和８年４月２４日（金）～５月２９日（金）のうち１日

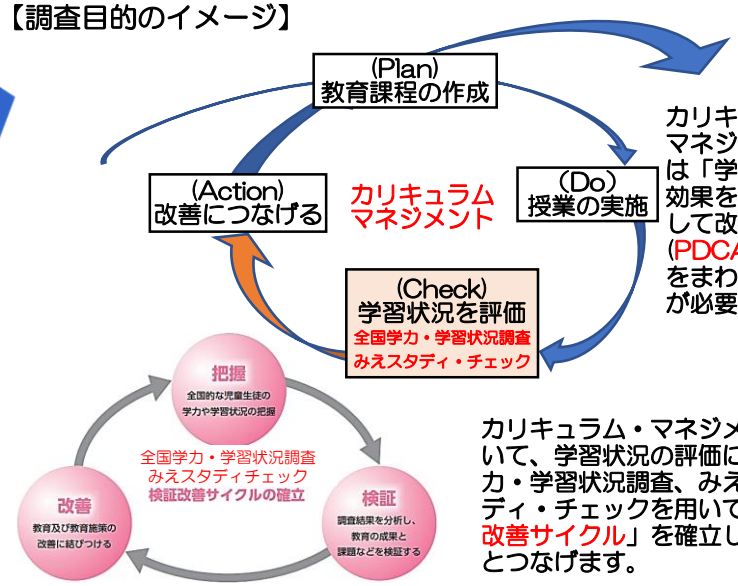
⑶　**調査実施人数(津市)**

小学校第６学年児童　約１,９００人　中学校第３学年生徒　約１,８００人

⑷　**調査内容**

国語、算数・数学、英語（中学校のみ）、児童生徒質問調査

【調査目的のイメージ】



カリキュラム・マネジメントには「学校教育の効果を常に検証して改善する(PDCAサイクルをまわす)」ことが必要です。

カリキュラム・マネジメントにおいて、学習状況の評価に全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックを用いて、「検証改善サイクル」を確立し、改善へとつなげます。

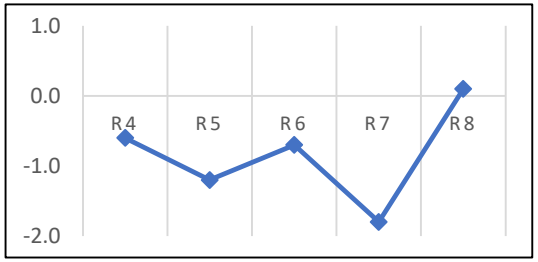
２　平均正答率推移　（R7中学校理科、R8中学校英語は平均IRTスコア）

小学校	令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度		令和８年度	
	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国
国語	65	65.6	66	67.2	67	67.7	65	66.8	61	60.9
算数	62	63.2	61	62.5	62	63.4	56	58.0	54	56.4
理科	62	63.3					55	57.1		

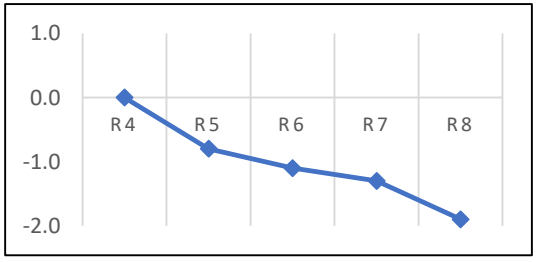
中学校	令和４年度		令和５年度		令和６年度		令和７年度		令和８年度	
	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国	津市	全国
国語	69	69.0	69	69.8	57	58.1	53	54.3	62	63.9
数学	53	51.4	51	51.0	53	52.5	47	48.3	56	57.0
理科	49	49.3					494	503		
英語			46	45.6					498	499

全国差　推移

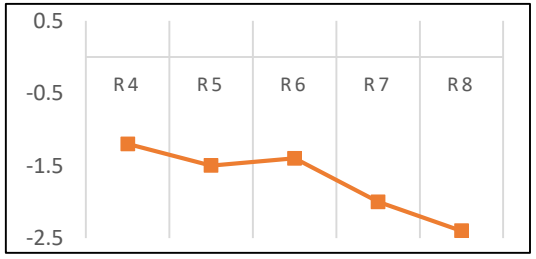
小学校　国語



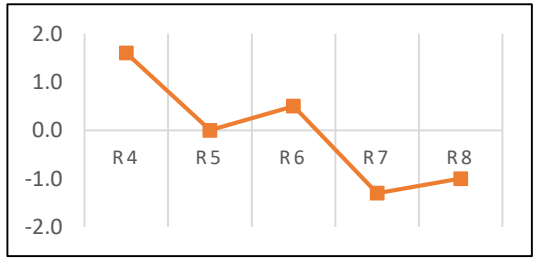
中学校　国語



小学校　算数



中学校　数学



３　各教科　全国より正答率が低い問題や正答率自体が低い問題について

国立教育政策研究所
教科に関する調査結果

小学校 国語

１二(1)　（正答率５６.６% 全国差▲３.６% 無回答１.９%）
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうか
【第５・６学年 思考力,判断力,表現力等 Ａ話すこと・聞くこと】

【動画の一部】から、岡野さんたちのグループが、遊びを紹介するために自分たちの考えが伝わるよう、どう資料を活用しているかを選択する問題です。

【動画の一部】において、手元や口元を大きく映し映像で示すことが、茎笛の遊び方を伝える表現の工夫と捉えられなかったこと、または、実際の音を示すなどして、言葉だけの説明では分かりにくい内容を補足していると捉えられなかったことが考えられます。

学習指導に当たっては、資料活用の効果も予想し考えられるよう指導することが大切です。また、目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料の整合性、適切な時間や機会での資料提示方法などに注意するよう指導する必要があります。

参考：国立教育政策研究所　報告書（小学校　国語）Ｐ29～30

国立教育政策研究所
報告書

小学校 算数

１(1)　（正答率６６.２% 全国差▲６.５% 無回答１.０%）
立方体の体積の計算による求め方について理解しているか
【第５学年 Ｂ　図形　知識・技能】

一辺が８㎝の立方体の体積を求める式を答える問題です。「８×３」または「８＋８＋８」とする誤答が多く見られ、三つの辺が関係していることは理解しているものの、体積の計算による求め方の理解に課題が見られました。また、本市全体としても、図形の領域に課題が見られます。

指導に当たっては、長方形や正方形の面積の求め方を基に、直方体や立方体の体積の求め方を考える活動を取り入れ、１㎤の立方体を積み重ねた個数と体積を関連付けて理解できるようにすることが大切です。

また、全ての辺の長さが等しいという立方体の性質に着目させ、一辺の長さを用いて体積を求められることについて理解を深めることが重要です。

参考：国立教育政策研究所　報告書（小学校　算数）Ｐ24～29
　　授業アイディア例　Ｐ43～46

国立教育政策研究所
授業アイデア例

中学校 国語

４四(正答率３５.８% 全国差▲３.１% 無回答１８.７%)
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうか

本問は、二つの例文を比較して擬態語「きっぱり」の効果を捉え、本文の叙述を根拠に説明する力を求める問題です。正答率の低さや無回答率の高さからは、本文の表現に着目して擬態語の効果を捉えきれていない点や、本文の叙述を根拠とせず、個人の感覚や体験のみに基づいて解答している可能性があります。指導に当たっては、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の過程において、文章中の叙述を根拠に自分の考えを説明する活動を充実させることが重要です。例えば、「この言葉がある場合とない場合で受ける印象はどう異なるか」「なぜ筆者はこの言葉を使ったのか」「その根拠は本文のどこにあるか」といった問いを投げかけ、表現の効果と本文の叙述を結び付けて説明させる指導が求められます。

参考：国立教育政策研究所　報告書（中学校　国語）Ｐ67～68

国立教育政策研究所
授業アイデア例

中学校 数学

６(3)(正答率４０.８% 全国差▲３.８% 無回答２７.５%)
統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるか【第２学年 Ａ 数と式】

手順にしたがってできたＡとＢについて、「Ａ－Ｂ」の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する問題です。

問題の条件を変えた場合について、元の問題の解決過程や結果を振り返り、成り立つ事柄を予想したり、その事柄を数学的な表現を用いて説明したりすることに課題があったと考えられます。今後は、数学の事象から問題を見い出して解決するだけでなく、その解決過程や結果を振り返り、問題の条件を変えた場合について考える活動を取り入れることが大切です。その中で、数の性質について成り立つ事柄を予想し、その特徴を数学的に説明するなど、統合的・発展的に考察する力を育成することが求められます。

参考：国立教育政策研究所　報告書（中学校　数学）Ｐ41～48

国立教育政策研究所
報告書

中学校 英語

１０(2)　(正答率２７.２% 全国差▲０.６% 無回答１５.０%)
短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く

本問は、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題です。書くことができなかった要因として、①文章の内容が読み取れず、書くべきことが分からなかった、②文章の内容は読み取ることができたが、何を書いたらよいのか思い浮かばなかった、③文章の内容は読み取ることができ、書く内容も思い浮かんだが、英語の表現が分からなかった、などが考えられるため、生徒の課題がどこにあるのかを見取り、それぞれに応じた指導を行うことが大切です。指導に当たっては、書かれている文章の内容と問われていることを確認した上で、書き手の意見に対して、賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として書くことから指導していくことが考えられます。そのためには、文章を読んで要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモさせたり、思考ツールを使って整理させたりすることが考えられます。書き手の意見に対する賛否をメモに書かせたり、賛成の場合は、理由も同じなのかどうか、反対の場合は、その理由をメモに整理させたりすることが考えられます。書いた文章を互いに読み合い、自分が書いた文章に必要な内容を書き加えることなども考えられます。読み手に伝わるように正確に書く力を高めるためには、生徒同士でコメントさせ合ったり、教師がフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることが大切です。　参考：国立教育政策研究所　報告書（中学校　英語）Ｐ76～89

国立教育政策研究所
報告書

4　児童生徒質問調査について

※　数値は肯定的回答の割合　▲はマイナス

(1)　「主体的・対話的で深い学び」に関わって

Point!

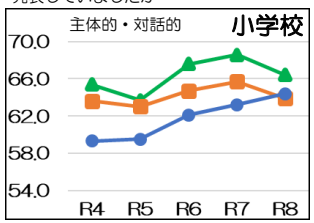
「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目については、令和４年度から各校で重点的に取組を進め、経年変化に着目しています。今年度は、全国や県を下回る項目があるものの、令和４年度と比べて多くの項目で上昇しており、授業改善の成果の一端が表れているものと考えられます。特に、対話的な学びに係る「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問(35)では、小学校は全国や県を上回り、中学校でも全国や県との差が縮小しています。

文部科学省・国立教育政策研究所の報告では、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいると考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。また、好奇心・問題解決力・粘り強さ・挑戦心との関連も示されています。特に、「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」と回答した児童生徒ほど、「新しいことを学ぶのは好きだ」と回答する傾向が見られ、**「好きを育み、得意を伸ばす」**教育を進める上でも重要な視点です。

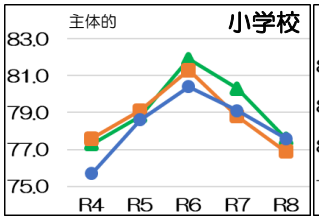
こうした授業改善は、生徒指導の観点からも重要です。生徒指導提要では、自己指導能力を育むために、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」が重要とされています。児童生徒が自ら考え、選択し、決定する機会を広げるためにも、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められます。本市で伸びが見られる対話的・協働的な学びを今後も充実させ、学習指導と生徒指導を一体的に捉えた授業改善を進めていきましょう。

津市　県　全国

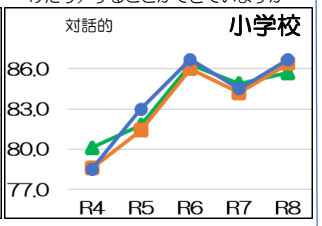
(31) ５年生まで（１，２年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

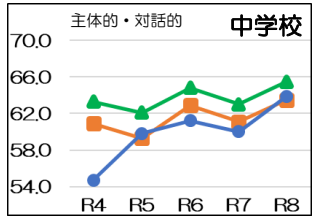


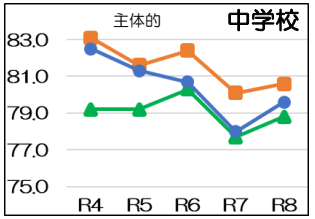
(32) ５年生まで（１，２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

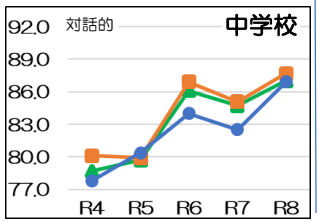


(35) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたり（広げたり）することができていますか









(2)　「自己調整する力」に関わって

Point!

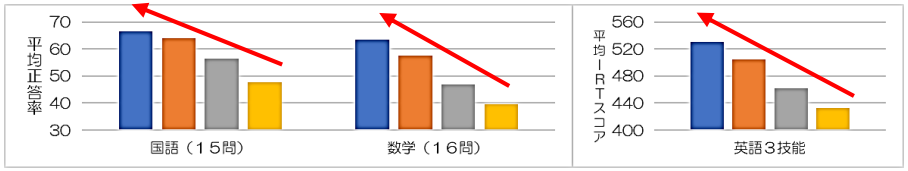
昨年度から重点的に取り組んできた「自己調整する力」に関する質問(43)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、小・中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇しました。

【(43)学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか】　※

	令和７年度			令和８年度		
	津市	全国	差	津市	全国	差
小学校	78.8	79.4	▲0.6	80.7	78.4	2.3
中学校	73.3	73.4	▲0.1	79.1	79.0	0.1

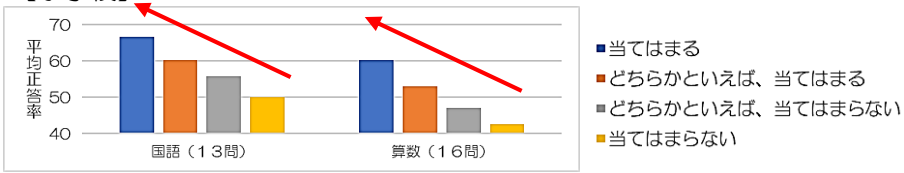
また、文部科学省・国立教育政策研究所の報告では、「学びの主体的な調整」ができていると考える児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が示されています。「学びの主体的な調整」とは、自分の学習状況や思考・行動を客観的に捉えながら、必要に応じて学び方を見直したり、次の学習につなげたりすることであり、「自己調整する力」であるといえます。本市の児童生徒質問調査と各教科のクロス集計結果からも、同様の傾向が見られます。

【中学校】



「学びの主体的な調整」と「各教科の正答率・スコア」に相関関係あり

【小学校】



先行きが不透明で将来の予測が困難な時代には、与えられたことに取り組むだけでなく、自ら考え、選択し、行動する力が求められます。学習指導要領においても、「主体的な学び」の視点として、見通しを持って粘り強く取り組み、学習活動を振り返って次につなげることが重視されています。津市版授業改善マニュアルに示す「学びのサイクル」を意識した授業改善を進めることで、児童生徒が自らの学習を振り返り、学び方を調整しながら次の学習につなげる力を育むことが重要です。

4　児童生徒質問調査について　～津市教育振興ビジョン(後期基本計画)重点施策に関わって～

※　数値は肯定的回答の割合
▲はマイナス

(3)　乳幼児期から小学校への連続した学び ～生活科・探究的な学び、非認知能力育成の視点～

※

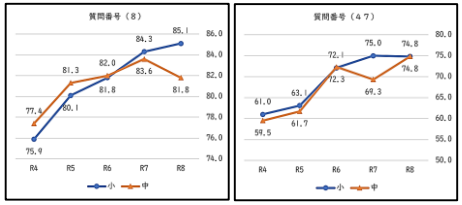
質問番号		質問事項	津市	県	全国	全国差	R７津市
小	8	自分には、よいところがあると思いますか	85.1	84.7	85.6	▲ 0.5	0.8
中			81.8	84.1	84.0	▲ 2.2	▲ 1.8
小	39	５年生（中学２年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	77.6	76.9	77.6	0.0	▲ 1.5
中			79.6	80.6	78.8	0.8	1.6
小	47	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	74.8	74.6	79.9	▲ 5.1	▲ 0.2
中			74.8	76.4	80.8	▲ 6.0	5.5

【「自分で考え、取り組む」から、「問いをもち、探究する」へ】

津市架け橋プログラムでは、幼児教育と小学校教育の接続を通して、「自ら考える」「解決策を模索する」「最後までやり通す」「自己肯定感」などの非認知能力を育むとともに、主体的・対話的で深い学びにつなげることを重視しています。調査では、「自分で考え、自分から取り組む」割合は全国と同程度ですが、自己肯定感や総合的な学習の時間における探究的な学びは全国を下回っています。幼児期の「やってみたい」「自分で考えたい」という思いを、生活科等の各教科や、総合的な学習の時間へつなぎ、自ら問い、探究する学びへと発展させることが重要です。

【令和４年度からの経年変化】

令和４年度と比較すると、自己肯定感と探究的な学びに関する項目はいずれも上昇しています。今後も幼児期からの学びの連続性を意識した取組を進めましょう。



(4)　学校と地域が一体となって進める教育

※

質問番号		質問事項	津市	県	全国	全国差	R７津市
小	33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	81.6	82.3	80.1	1.5	81.9
中			71.5	74.3	72.3	▲ 0.8	74.9

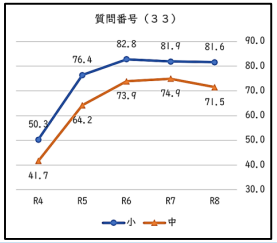
【「地域に学ぶ」から、「地域とともに学び、創る」へ】

子どもたちが夢や希望を持ち続け、未来を生き抜くためには、地域の人やもの、ことから学ぶだけでなく、地域の一員として人々とともに課題を捉え、考え、行動する学びが重要です。その実現に向け、学校運営協議会と地域学校協働本部の連携を深め、地域とともに子どもの学びを支える学校教育を進めていきましょう。

【令和４年度からの経年変化】

この質問項目では、小学校、中学校ともに、令和４年度と比べて約30ポイント上昇しています。

今後も「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向け、地域の人材や資源を教育課程に生かすカリキュラム・マネジメントを進めましょう。



(5)　GIGAスクール構想の実現

※

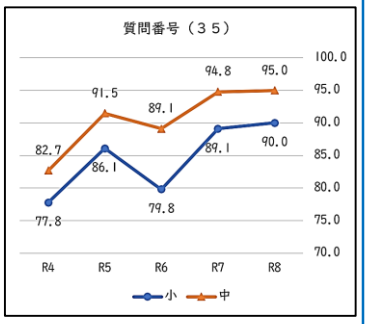
質問番号		質問事項	津市	県	全国	全国差	R７津
小	35	【ICTを使用した学習】５年生（中学２年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（週３回以上） 【「ほぼ毎日」回答比較】（全国比）小学校＋３３．０、中学校＋３４．６	90.0	73.9	68.8	21.2	0.9
中			95.0	88.6	78.2	16.8	0.2
小	48	【ICTの活用】総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか	79.1	75.5	79.7	▲ 0.6	新項目
中			77.4	78.0	81.7	▲ 4.3	新項目

【「ICTを使う(量)」から、「ICTを選択・判断し活用する(質)」へ　】

ICT機器の使用頻度は、小・中学校ともに全国を大きく上回っており、ICTを日常的に使用する学習環境が定着していることがうかがえます。一方、総合的な学習の時間における情報の収集・整理・発表への活用実感は全国を下回っています。ICTを「使う」ことから、児童生徒が学習の目的に応じて活用方法を選択・判断し、探究的な学びを深めることができる授業改善を進めることが重要です。

【令和４年度からの経年変化】

論点整理では、どの学校にも、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化しているとされています。令和４年度と比較してICT機器の使用が定着してきている今、多様性を包摂し、一人一人の学びを支える、誰一人取り残さない教育に向けたICT活用を考えていきましょう。



5　今後の改善方策　自校の分析について

今年度も、全校で児童生徒質問調査の結果を活用した取組を実施します。継続して重点的に進めている『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善について、各校の昨年度の取組状況や今年度の取組内容を記入してください。また、次期学習指導要領や津市教育振興ビジョンの重点施策に関わる質問項目にも着目し、自校の強みや課題を把握し、今後の取組につなげてください。



右の二次元コードから国立教育政策研究所のサイトにアクセスできます。報告書には、調査の概要や結果、各問題の分析、授業アイディア例等が掲載されています。市全体の傾向と自校の結果を照らし合わせ、児童生徒の実態を捉え、授業改善や学校全体の取組に役立てましょう。

国立教育政策研究所
教育課程研究センター
「全国学力・学習状況調査」